

扉をあけて

元気さん

しょうじ るつこ
東海林 路得子 さん



この五年間で百六十人の女性が、「ステップハウス」で自分を取り戻し、新しい生活に向けて旅立っていった。

「居所を失った母子や路上生活者、暴力被害の女性のための施設は各県にあります。六カ月以内に、着のみ着のまま

上長期滞在できる単身女性の上長期滞在中、人など形態はさまざまだが、ほとんどの人が性的暴力を受けているという。

「ステップハウスの開設二年目に、設立母体である日本キリスト教婦人矯風会から請われて所

長に就任した。それまでは女性や母子のための緊急避難所「女性の家H.E.L.P.（ヘルプ）」のディレクター、元「慰安婦」の補償問題などに取り組む「女性国際戦犯法廷」事務局長などを務めてきた。

「本当は一年でも足りないくらい。でも行政は早く施設から出して、早く社会で仕事をさせようとする。すると必ず後で落ち込みや恐怖、精神的混乱が彼女たちを襲うのです」と顔を曇らせる。

「本当は一年でも足りないくらい。でも行政は早く施設から出して、早く社会で仕事をさせようとする。すると必ず後で落ち込みや恐怖、精神的混乱が彼女たちを襲うのです」と顔を曇らせる。

「相手の側にどれだけ自分では立てるのか、どれだけ相手の声を聞けるのか、出会いの中でいつも問われています」

「相手の側に立ち、声を聞く。『出会いの中でいつも問われる』 72歳